

発行によせて

デザインの含意するところは近年大きく変化しています。私たちの社会においては、分断や環境問題など人類共通の課題からコミュニティの再生など地域に密着する課題まで、およそすべてがデザインの対象ととらえられてきていると言っても過言ではありません。そのことは、公益財団法人日本デザイン振興会(JDP)が主催する「グッドデザイン賞」の近年の授賞の傾向を見ても明らかと言えます。

一方で、デザインには何ができるのか、その活用はどうすればいいのかわからないという方もいらっしゃるでしょうし、変化するデザインを巡る状況の中で、ご自身の立ち位置を考え、デザインに関する指針を立てたいという方もいらっしゃるかと思います。

こうした皆様のニーズに対応するため刊行するこのデザイン白書は、地域や企業、行政といった社会のさまざまなセクターでのデザイン活動の全体像を鳥瞰的に示すものです。また、2023年10月には、34年ぶりの日本開催となる「WDO世界デザイン会議東京2023」が開催され、世界39の国・地域から297名が出席し、地球環境問題やAIなどのテクノロジーの進展と私たち人間との関係性、これらを踏まえてデザインは何ができるのかについて議論を交わしました。本書では、デザインの「いま」を国際的な視点からとらえるこの会議についても巻頭特集で取り上げています。

本書は、経済産業省デザイン政策室の監修のもと、株式会社三菱総合研究所DESIGN×CREATIVE TEAM、AXISによる制作・編集、一般社団法人デザインシップの協力をいただきJDPが発行にあたります。数多くの方々の記事のご執筆やインタビューへのご協力など多大なるご支援を賜りましたことを発行人として厚く御礼申し上げます。関係者との共創によるデザイン白書が、皆様にデザインの「いま」を伝えるとともに、デザインの「これから」を考えていただくことの一助になることを願っています。

公益財団法人日本デザイン振興会(JDP)

理事長 深野弘行

監修にあたって

100年近くに及ぶ我が国のデザイン政策は、地域の工芸品の改善研究・輸出振興にはじまり、戦後は、意匠盗用の防止や我が国独自のグッドデザインの確立、デザインイヤー等の開催による国民意識啓発、地域におけるデザイン振興、感性価値やデザイン経営の推進、行政におけるサービスデザインの取り組みなど、時代の要請に合わせて対象領域を拡大してきました。

社会や経済の状況が急速に変化し、デザインの可能性に注目が集まる今、これからの時代に求められるデザイン政策とは何か。それを明らかにすべく、経済産業省では2023年に「これからのデザイン政策を考える研究会」を開催しました。

有識者の方々と、我が国におけるデザイン政策の課題やあり方について検討を行うなかで、「国内の最新のデザイン動向を網羅的に取りまとめ、デザイン活用の効果などを継続的に調査し、戦略的に社会に対して発信する機能」の不在が大きな課題となりました。社会全体のデザインに関する理解や、デザイン投資や活用を促すナレッジの蓄積や共有が十分に進まないなか、その重要性が高まっています。

対して、国や自治体の政策、企業経営にデザインを積極的に導入・活用しているデザイン先進国には、デザイン活用の司令塔とも言える「デザインカウシル」が存在し、調査研究レポートなどを通じて社会の至るところにデザインを浸透させています。

本書「デザイン白書」は、まさにこの課題に対応するものとして、株式会社三菱総合研究所 DESIGN×CREATIVE TEAM、AXIS、一般社団法人デザインシップの協力のもと、公益財団法人日本デザイン振興会から発行されました。

これまで十分でなかった、我が国の企業・地域・行政等のデザイン動向についての網羅的な把握が意欲的に取り組まれ、定量的・定性的に示された多くの情報は、デザインへ投資することの意義を明らかにしてくれています。各地でデザインを用いたどんな取組が展開されているのか、デザインは経済・社会にどのような効果をもたらしているのか。そのナレッジを集約・蓄積・共有していく、今回がその第一歩となります。

最後に、本書の編纂にあたられた関係者の皆様に深く敬意を表するとともに、本書が多くの皆様に広く活用され、我が国の企業・行政・地域の活動に対するデザインの浸透と、世界に誇るジャパン・デザインの更なる高度化の一助となることを祈念します。

経済産業省
デザイン政策室長 俣野敏道

はじめに

「デザイン白書」は、経済産業省デザイン政策室の研究会における議論をもとに生まれた。本レポートは、日本のデザインの動向とその効果を広く社会に発信するひとつのメディアであり、多様なデザイン領域で活躍する人や組織をつなぎ、日本のデザインを発展させていく仕組みである。

経済産業省デザイン政策室では、国内外のデザイン政策動向調査およびデザイン業界有識者へのヒアリング調査をふまえ、2023年1月に「これからのデザイン政策を考える研究会」(座長:齋藤精一)を設置し、同年9月までの4回の研究会をとおして我が国のデザイン政策の課題やあり方を検討した。その結果、我が国は海外デザイン先進国とは異なり、国内の最新デザイン動向を網羅的に取りまとめ、デザイン活用の効果等を継続的に調査し、戦略的に社会に対して発信する機能が不在であることが確認された。この機能の不在により、我が国企業や行政等がデザイン導入・活用に取り組むきっかけや機運を十分に醸成できておらず、国内におけるデザイン振興のボトルネックになっているほか、国際的なデザイン業界の観点からは、日本のデザインの概況を世界に発信できるものがなく、ジャパン・デザインのプレゼンスを十分に発揮できていない。

そこで、我が国のさまざまなデザイン動向を可視化し、デザイン業界のよりいっそうの連携とデザインに関する議論の活性化を促すとともに、デザインの可能性を広く社会に発信することを目的として、「デザイン白書」を制作することとなった。本レポートは、経済産業省デザイン政策室の監修のもと、公益財団法人日本デザイン振興会と株式会社三菱総合研究所 DESIGN×CREATIVE TEAM、AXIS、一般社団法人デザインシップが協力し、200名超のデザイン関係者に取材や執筆の協力をいただきながら、拡大するデザイン領域の多様な動向を豊富な事例とともに紹介している。

内容は大きく6つ、(1)2023年10月に34年ぶりに日本で開催されたWDO世界デザイン会議東京2023を特集する「世界×デザイン」、(2)47都道府県ごとにデザインの取り組みや課題などを調査・評論する「地域×デザイン」、(3)大企業から中小企業までの多様な業界企業やデザインファーム、教育機関等の活動を幅広く共有する「企業×デザイン」、(4)中央省庁や県庁、市役所におけるデザインの取り組みを紹介する「行政×デザイン」、(5)デザイン関連のフェスティバルやアワード、企画展などを発信する「文化×デザイン」、(6)デザイン関連の統計や施策、主要なデザイン関連イベントを掲載する「資料」と、日本のデザイン動向を網羅的に把握するような充実した内容となっている。読者の方は、ぜひ関心のあるテーマや事例からご覧いただくと良いだろう。

2024年3月